

令和4年度地域包括ケアに携わる多職種合同研修会

～「顔の見える関係」から「多職種協働」、そして「チーム北空知」へ～

第2回 ケア・カフェきたそらち 開催結果・評価

項目	内 容
1 目 的	北空知における地域包括ケアシステムの構築を目指して、地域の保健・医療・介護・福祉の関係機関・施設・事業所等において、患者や利用者、地域住民の支援に携わる多職種の関係職員が一堂に会することが困難な状況にあっても、互いの役割を確認・共有し、切れ目のない支援・サービスが提供される多職種連携の関係作りを構築する。
2 期待する効果・成果	○地域支援関係者、医療関係者等の多職種が情報交換・共有する関係性と環境が構築される ○多職種の交流の場を運営する組織ができる
3 日 時	令和5年1月20日（金） 18：00～20：00
4 場 所	オンライン開催（ZOOM）
5 内 容	（1）話題提供 「終活～今ドキのお墓事情」 話題提供者 有限会社マル安三上石材工業所 代表取締役 三上 貴康 氏 （2）グループワーク テーマ 「終活」 カフェマスター 深川市高齢者支援課地域包括支援係 立川智章 氏
6 出席者	医師1名、歯科医師1名、歯科衛生士3名、薬剤師2名、看護職9名、保健師8名、介護支援専門員7名、介護福祉士3名、社会福祉士3名、ソーシャルワーカー2名、リハビリ職1名、管理者6名、事務職2名、その他2名 <u>合計 50名</u>
7 結 果	（1）話題提供内容 ○自己紹介後、資料に基づき、「終活～今ドキのお墓事情」をテーマに情報提供をいただいた ○終活の目的やその方法、具体的な手段、お墓に纏わる情報など、わかりやすく説明、紹介いただいた。ただ、30分では時間が不足し、後半のお墓事情の説明は駆け足気味になった。終了後、講師からは1時間あっても足りない位と話があった。また、今回、繋がりができたので、別の機会でもた話をしても良いと前向きな発言も聞かれた（ボランティアで講師を引き受けてもよい） （2）グループワーク ○各 Chat1 は9グループ、Chat2 は10グループ編成し、1グループ4～8人のランダム編成とした （ホストとカフェマスターの2名を除いてグループ編成） ○カフェ・マスターから進行方法と、自己紹介（氏名・所属・職種・あなたの終活のイメージは？）について説明があった後に Chat 1 が開始され、休憩（5分）を挟んで Chat 2、全体会へと進行された ○各 Chat の開催時間（Chat 1：30分、Chat 2：20分）が設定され、時間になったら全体へ戻ることから、集合研修時に見られる「会場の音で聞こえない」「話し足りず、なかなか終わらない」という状況はなく、集中してそれぞれの Chat 内で時間通りに進行がされた ○参加者はオンラインでの会話や、端末の操作に慣れてきている様子。個々の終活に対するイメージ、仕事や私生活上での体験など意見交換することができた 内容は「終活の話題を利用者の方とストレートに話をすることは難しいが、これからの生活をどうしていきたいか、目の前の生活を一緒に考えることで終活に繋がっていくのではないか」「両親の終活について家族会議を開いている」「人生のやりたいことリストを作るといい」「断捨離や片付けのアドバイスが欲しい」「エ

ンディングノートをつけてみたい」などだった。
 ○カフェ・マスターの説明と全体のまとめがわかりやすく進行もスムーズだった

【小部会で振り返り】

○：達成できた △：ほぼ達成・まあまあ良かったが課題あり ×：達成できていない・良くなかった

項目	内 容
8 評 価	<p>企 画</p> <p>○地域の多職種連携の課題に即した企画だったか →「○」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの職種、分野、年齢でも共通の話題だったので気軽に意見交換でき、タブレット上でも顔の見える機会ができた <p>○テーマの選定 →「○」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な話題ではあるが、専門職の話聞く機会は少ないことから、改めて終活について学ぶことができた。講義の内容は分かりやすく、具体的にどんな準備をしていくべきか実践に繋がる内容で良かった <p>○周知方法 →「○」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回覧しやすいようメールで送付された。周知日程等も良かった ・研修開催の約1ヶ月前に、104カ所の医療介護福祉関係機関・事業所へメール・郵送。協議会構成員へもメールで案内され余裕をもって調整できた ・各所属でチラシを回覧するなど、参加勧奨を行った <p>○会場の状況 →「○」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染状況からZOOMでの開催方法で良かった ・背景・BGMも定着してきており、雰囲気作りができた
	<p>プ ロ セ ス</p> <p>○小部会の打合せ・準備状況 →「○」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ZOOM開催により、小部会2回（10/6、12/6）で内容を協議 ・当日に向けて、グループワークの進行方法や画面共有及びブレイクアウトルーム編成等について、これまでの経験を踏まえ効率的に確認ができた ・話題提供に関する資料を事前に参加者へ配布することができた <p>○小部会のメンバーそれぞれの役割を遂行できたか →「△」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ZOOM開催のため、事前準備で役割分担する内容は集合研修と比べると少ないが、参加のみとなる委員がいるため、負担を公平にするように次回からは検討できると良い。ブレイクアウトルームでは委員は積極的な発言を意識して参加した ・カフェマスターを委員から選出し、事務局、情報提供者が同じ会場から配信した ・カフェマスターはケア・カフェの参加経験がある委員だったため、進行は全く問題なく、雰囲気よく進められていた <p>○参加者の状況 →「△」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前はアンケート回答率が悪かった（35人/60人：58.3%）ことから、今回はアンケート記入し終了とした。そのため、34人/50人：（68%）の回答が得られ、前回より10ポイント程上昇した ・参加者は、40歳～50歳代の出席が82.4%と殆どを占めた。20歳代の参加は今回なかった ・顔の見える関係を今後引継いでいく上で、若年層の参加勧奨をすすめる必要がある

結果	<p>○参加者数 →「△」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定員100名としたが、申込みは50名、当日の欠席は1名、直前の申込1名で±0となった ・勤務市町別では、深川市26名(52.0%)、妹背牛町7名(14.0%)、秩父別町5名(10.0%)、北竜町6名(12.0%)、沼田町6名(12.0%)、深川市が約半数を占めていた* ・委員等別では、協議会委員等が23名(46.0%)、小部会委員8名(16.0%)、委員等以外19名(38.0%)と、委員等の関係者が半数以上だった* ・参加者のほとんど(85.3%)が、職場から参加した ・同じ職場から複数名の参加があった ・今回初めて参加したのは4名で11.7%(前回22.9%)だった <p>○職種 →「○」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な職種の参加があった <p>○参加者の満足度 →「○」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートから、楽しさ、有意義さ、役立ち共に満足度が高かった。「様々な年代で話し合い共感でき、今後の参考になった」という肯定的な記載があった ・オンライン研修は回数を重ね慣れてきているようで、「便利でよい」が91.1%であり、「操作が難しい」は0名、「馴染めない」も数名でオンライン研修は浸透してきている ・今後も参加したいかについては、「参加したい」が94.1%(前回88.6%)だった <p>○交流の場を手伝ってくれる人の確保ができたか →「×」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カフェマスターから当日改めて運営協力へのアナウンスがあったが、今回も質問への回答はなかった ・引き続き運営協力員の世代交代を視野に入れつつ取り組んでいく事が必要
まとめ	<p>○多職種連携をする上で、顔の見える関係性の構築とその継続が重要であり、ケア・カフェはそれらを実現するとてもよいツールと考える。少しでも多くの人に参加し「顔の見える関係」になって北空知での連携がよりスムーズに行われるよう、今後も継続した取り組みが必要</p> <p>○終活というテーマは、様々な切り口があり幅広い内容である。アンケートで継続テーマを希望する声が複数あったことから、今後の参考とする</p> <p>○オンラインでは、他グループの様子や雰囲気からわからないため、チャット終了後にグループ毎に発表することや、全体で話題を共有できるように発言を促すこと等、開催方法や時間配分の検討が必要</p> <p>○回数を重ねオンライン研修は、かなり浸透してきているが、端末や通信環境から参加しづらい場合も考えられ参加者への配慮が求められる</p> <p>○「集合研修」を期待する意見は毎回ある。オンライン開催の強み(地理、時間、季節)を生かしつつ、集合形式も一部取り入れたハイブリッド開催など、状況に応じた開催方法を検討し、若年層や委員等以外の参加者が増えるような取り組みが必要</p> <p>注：文末が「※」となっている文中の数値は申込名簿から使用。それ以外はアンケートからの数値を使用</p>